

## Thermo2025 中日巡検報告 (A コース：福井県立恐竜博物館)

### Report on the mid-conference field trip of Thermo2025

#### (Course A: Fukui Prefectural Dinosaur Museum)

長田充弘\*

Mitsuhiro Nagata \*

\*：日本大学文理学部地球科学科, Department of Earth and Environmental Sciences, College of Humanities and Sciences, Nihon University

#### はじめに

北陸地方は、日本海に面するため、独特な地質がいくつも見られる。その背景にある原因の一つが日本海拡大であろう。正確な年代や成因は議論があるものの、おおむね中新世までにアジア大陸東縁から現在の日本の原型となるものが分離し、日本海が形成された。これにより、北陸地方では、①アジア大陸に位置していた頃の地質や岩石、②日本海の形成に伴って、形成された地層や岩石、および③日本海形成後に形成された地層や岩石を見ることができる。本巡検では、①と③の太古の日本を楽しんでもらう目的で福井県立恐竜博物館と東尋坊への巡検を企画した。巡検リーダーは岩野英樹（株式会社京都フィッション・トラック）と長田充弘で、参加者は24人であった。

#### Stop 1：福井県立恐竜博物館

福井県立恐竜博物館は、2000年に開館し、2023年にリニューアルオープンした。2024年度には来館者126万人を達成する等、日本で人気の博物館である。

Thermo2025の会場である金沢商工会議所から福井県立恐竜博物館に到着するまでは、北陸自動車道から中部縦貫自動車道を経由して、移動した。高速道路が少し混んでいたため、やや到着が遅れた。高速道路を降りて、福井県勝山市に入ると、遠くに銀色のドーム状の建物が

見えた。「あれは何だ？」と参加者に尋ねると、「Dinosaur egg!」と声があがった。福井県立恐竜博物館に到着すると、まず、博物館前で集合写真を撮影した(図1)。尚、この集合写真中で、多くの参加者がスリーピースをしているのは、筆者の指示によるものである。これは、福井県勝山市から発見されたフクイラプトル(図1の写真中央の恐竜)をはじめとする多くの肉食恐竜(獣脚類)の前脚は3本指であるためである。通常のスリーピースは人差し指、中指、および薬指で表現するが、ここは恐竜博物館であるため、上述の恐竜を忠実に再現(リスペクト)し、親指(第1指)、人差し指(第2指)、および中指(第3指)を使用してのスリーピースとした。読者の方々も福井県立恐竜博物館に来館された際は、このスリーピースで写真撮影することをお勧めする。もし、ティラノサウルスが好きな方は、前脚が2本指であるため(正確には退化した第3指がある)、親指(第1指)、人差し指(第2指)でのピースサインをお勧めする。

チケットを参加者に配った後、参加者は正面のエスカレーターを降りて、各自思い思いに館内を閲覧した。今回の巡検では、時間の関係上、勝山市の恐竜発掘現場付近で発掘体験をする「野外恐竜博物館」や化石について様々な体験ができる「化石研究体験」は利用できなかったものの、常設展に加えて、2025年7月～

2025年11月まで行われている福井県立恐竜博物館開館25周年を記念した特別展「獣脚類2025～「フクイ」から探る恐竜の進化～」を楽しんだ。この特別展では、これまで発見された福井県勝山市で見つかった恐竜化石やそれらの最新の研究成果、およびそれらに関連する世界の恐竜たちが展示されていた。中でも、天井から宙づりで展示されていた人気の恐竜スピノサウルスの最新復元骨格は、多くの参加者が写真を撮っていた。多くの参加者がミュージアム・ショップでお土産も買っていたので、満足だったようである。

## Stop 2 : 東尋坊

福井県立恐竜博物館を楽しんだ後は、東尋坊に移動した。バスで昼食をとったが、ベジタリアンの方々を除いて、チキンを使った弁当であったため、鳥の祖先が恐竜であることから、参加者に「Here is your dinosaur lunch box!」とお茶（もしくは水）を渡すと、笑顔で受け取っていた。参加者は、美味しそうに弁当を食べながら、山から海へと変わっていく福井の風景を楽しんでいた。

福井県坂井市の東尋坊は、日本海の荒波が岩に打ち寄せる、荒々しくも美しい景観が有名な場所である。地質学的には、米脇層東尋坊火山岩（安山岩）類と呼ばれており、柱状節理が発達している。参加者の多くは、比較的行きやすい崖の先端付近でポーズを決めて、写真を撮ったり、柱状節理独特の綺麗な六角形を探したりしていた（図2）。何人かは日本人でも行かないような崖の先端まで行っており、一部の巡検参加者の底知れぬ熱意を感じた。筆者が恐竜博物館での参加者の反応を見ていないからと思いたいが、東尋坊の方が巡検参加者のウケが良いような気がした。巡検は、やはり実際の地質や地形を見る方が参加者のウケが良いのかもしれない。巡検当日は暑かったため、東尋坊のすぐ近くにある商店街でジュースやアイス等を買っている参加者もいた。

ちなみに、東尋坊という名称は、平泉寺にいた生臭坊主、東尋坊の名に由来する。東尋坊には、以下のような複雑なエピソードがある。尚、以下では、混乱を避けるため、それぞれ東尋坊（人名）と東尋坊（地名）と表記する。東尋坊（人名）は、品行が悪く、綾姫という美女に恋をしていた。ある日、東尋坊（地名）で酒盛りをしていた所、恋敵であった真柄覚念という僧侶に東尋坊（人名）は崖から突き落とされてしまう。東尋坊（人名）が転落した後、東尋坊（地名）の周囲の海はしばらく激しく荒れた。これは東尋坊（人名）の未練（怨念）が原因とされる。東尋坊（地名）から見える日本海は、季節によって荒れることが知られているが、これは東尋坊（人名）の怨霊の表れなのかもしれない。しかし、巡検当日は晴れて海も穏やかであり、少なくとも我々は東尋坊（人名）に恨まれなかったようである。

## おわりに（謝辞）

まず、本巡検は、岩野英樹博士の尽力が大きかったということ強調しておきたい。岩野博士は、福井県出身ということもあり、バス内などでのアイスブレイク・ガイド等を率先してやっていただいた。彼のガイドには、多くの参加者が笑いながら、興味深く彼の話聞いていた。田村明弘博士（金沢大学）と株式会社PCOのスタッフの方々には、筆者が大学の海外実習等で忙しい際に、岩野博士と共に本巡検に関わる様々な手続きを進めていただいた。また、時哲君、相原要生君、および土屋皐葉君（金沢大学学生）には、受付や巡検参加者への対応にご助力いただいた。さらに、ふるさと茶屋 縄文の里のスタッフの方々には、巡検当日が定休日であったにも関わらず、ベジタリアンの方々のための弁当を用意し、福井県立恐竜博物館まで運んでくださった。以上の皆様の協力なしに、本巡検の成功はありえなかった。ここに記して深く感謝申し上げたい。



図1 福井県立恐竜博物館での集合写真.  
Fig. 1 A group photo at the Fukui Prefectural Dinosaur Museum.



図2 東尋坊の柱状節理にのる巡検参加者たち.  
Fig. 2 Field trip participants standing on the columnar joints at Tōjinbō.